



学びの山を登り切ろう ～生徒を“育てる”学校から生徒が“育つ”学校へ～

上西春別中学校 校長 蝦名 武宣

26名の新入生と8名の新しい教職員を迎え、令和6年度がいよいよスタートしました。本校は昨年度統合50周年を迎え、51年目の新たな一歩を踏み出そうとしています。そんな節目の年に学校教育目標を改訂いたしました。これは令和8年度に小中一貫校になることを想定し、昨年度1年間かけて検討を重ね、上西小中 共通の教育目標としました。それが「学びの山を登り切ろう」です。

これまで多くの学校では「どんな子どもに育てたいか」という発想から教育目標は教師が主語になっていることが主流でした。全国の小中学校の教育目標を調べると例えばこんな感じです。「みんなと仲良く、共に高め合う子どもを育てる」とか「主体的・自立的に学習に取り組む子どもの育成」「学習と生活の基礎・基本の定着を図る」いずれも「～育てる」「～育成」「～図る」などの言葉が多く、これは明らかに主語が教師です。確かにこれまでの学校教育は教える、導く、指導する、育てる・・・と教師が主語、つまり教育の主体が大人であることが前提でした。しかし、これからの時代はまったく逆なのです。授業を中心とした教育活動全般は子どもが主語にならなければなりません。「教育の主体は子ども」学びの種は教師が撒くのではなく、子どもの中にあるという訳です。



ですから本校の教育目標は「(子どもたちが) 学びの山を登り切ろう」という子どもを主語にした目標にしました。そして教職員の願い、子どもたちの声を聴きながら作成した令和6年度の「めざす姿」は次の通りです。

めざす姿く～ようになりたい・したい		
自主【学びと活用・自己実現】	協働【相手意識とコミュニケーション】	健康【心身の健康とやり抜く力】
自己との対話を通し、 自分なりの学び方をさらに深める	他者との対話を通し、 苦手を受け入れ良さを認め合う	心と体の健康状態を自覚し、 自ら生活改善を図る
熟慮し考えをまとめることで、 工夫して表現・行動する	対立を調整し、 相手意識を持って共に成長し合う	継続的に思考を改善し、 ねばり強くやり抜く
目的意識を働かせ、 学びを自分の生活につなぐ	自ら周囲に働きかけ、 双方向で協力し合う	周囲の力をかりて、 いつでもSOSを出せる

お気づきかと思いますが、自主・協働・健康は本校の校訓で、それに関連付けた9つの「めざす姿」も主語は子どもです。子どもが「～深める」「～成長し合う」「～出せる」を目指すのです。

今年度のはじめに私は本校の教職員にはこのように伝えていきます。「生徒を“育てる”学校から生徒が“育つ”学校へとパラダイムシフト(これまでの価値観を転換すること)してください!」と。つまり「教師が教える」から「子どもが学ぶ」という発想の転換が必要だということです。

今年度の本校は「あの先生は教え方が上手ね」ではなく「あの先生は子どものやる気を引き出すのが上手ね」とか「あの授業は子どもがワクワクしながら学んでいるね」という授業を積み重ねていこうと考えています。それが「学びの山を登り切ろう」に繋がってゆくからです。令和6年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。🐼

